

Funabashi Historical Museum & Tobinodai Historic Site Park Museum News

ふなばしめぐり

vol.1

船橋市郷土資料館・
飛ノ台史跡公園博物館館報
「みゅーじあむ・船橋」創刊号
平成25年(2013年)9月



創刊号

創刊にあたって	[2]
郷土の歴史	[3]
ふなばしめぐり	[3]
船橋の明治・大正・昭和	[4]
訪ねてみよう！ ご近所の遺跡	[5]
学芸員だより	[6]
バス見学会随行記	[7]
インフォメーション	[8]

創刊にあたって



郷土資料館長 前澤智明

『みゅーじあむ・船橋』の創刊にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

船橋市には、歴史博物館が2館ございます。郷土資料館と、飛ノ台史跡公園博物館です。

郷土資料館は、薬円台公園内に船橋市で最初の博物館として昭和47年に開館いたしました。

以来船橋の郷土の歴史資料館として親しんでいただいております。また、野外には蒸気機関車の「D51型125号車」を展示し、雨天を除く土・日曜・祝日には運転席の公開も行っており、多くの皆様方に観覧いただいております。

当館では開館以来、館報として『資料館だより』を刊行してまいりましたが、より広く市民の皆様にも両博物館の存在と活動、船橋の歴史や文化財についてご理解いただきたいと考え、新たな館報として『みゅーじあむ・船橋』を創刊することといたしました。

この館報から発信する情報によって、市民の皆様により親しみやすい博物館を目指していきたいと存じます。

平成25年9月吉日



飛ノ台史跡公園博物館長 平山憲司

飛ノ台史跡公園博物館は、飛ノ台貝塚の貴重な遺構を「史跡公園」として保存し、飛ノ台貝塚や市内の縄文遺跡から出土した遺物等の展示をする「展示施設」からなる縄文専門博物館として平成12年11月にオープンしました。開館以来、当館では企画展等の展示活動や、市民向けの講座を開催するとともに、市内小中学校の利用をすすめるために積極的に活動して参りました。おかげさまで、現在では20校ほどの小学校が縄文時代の人々の暮らしや市内の縄文遺跡の学習のために来館します。また平成23年度からは、隣接する海神中学校の美術科と縄文土器を活用した連携授業も行い、縄文土器のスケッチから発展させて制作した陶芸と型染めの作品は、各方面より“博学連携で生まれた素晴らしい作品”と高い評価をいただいております。

今後は郷土資料館とともに『みゅーじあむ・船橋』で、船橋の歴史や文化財について、広く市民の皆さまに、より親しんでいただけるような形で情報発信をして参ります。

平成25年9月吉日



郷土の歴史

やく えん だい 薬 円 台 (薬園台)

薬円台の地名は、江戸時代この地に薬園が開設されたことに由来しています。

江戸時代中期、元禄^{げんろく}～享保期^{きやうほう}に天然痘や熱病などの伝染病がはやり、薬種を栽培する薬園の整備・開設が行われました。薬園の整備・開設の背景には、高価な輸入薬種を国産化し、幕府の財政負担を軽減するという意図もあったようです。

享保5年(1720)、駒場薬園が開設され、享保6年(1721)には小石川薬園が拡張されました。

そして、享保7年(1722)、幕府は、医師で本草学者^{ほんそうがくしや}でもあった丹羽正伯^{に わしやうはく}に、下総国千葉郡小金野^{たきだいの きりやまた え ち ん}にある滝台野30万坪の内、15万坪を管理運営し、栽培した薬種の一部を幕府に納め、余った薬種を世間に流通させるよう命じます。また、残りの15万坪を江戸の薬種問屋桐山太右衛門に与え、薬種の栽培を命じます。

この滝台野30万坪がほぼ現在の船橋市薬円台にあたります。

滝台野を与えられた正伯は江戸から通い、太右衛門は日本橋から滝台野に移り住み、薬園開発と薬草栽培の指導にあたりました。

現地で直接指導にあたっていた太右衛門は薬園開

設から4年後の享保11年(1726)に死去します。享年50歳。墓所は松ヶ崎(薬円台3丁目)に造られましたが、現在は高幢庵^{こうどうあん}(薬円台1丁目)脇の墓地に移されています。

正伯は幕府の公務に励み、宝暦6年(1756)、江戸で死去します。享年66歳。

当時、滝台野でどのような薬種が栽培され、どのような人がかかわっていたかなど詳しくはわかりません。江戸時代後期には、薬園台新田という畑作中心の村となっていたようですので、薬園としては長くは続かなかったと考えられます。

薬園台のことを、正伯と呼ぶことがあります。これは、薬園の開発にあたった丹羽正伯にちなんでのことです。

現在、住所は薬円台という表記になっています。昭和48年(1973)に住居表示が行われ、「園」の字を「円」と変更したためです。薬円台小学校などの施設の名称も「円」を使うようになります。薬園台駅、薬園台高校は名称の表記を変更せず、「園」のままとなっています。

※本草学…薬用になる植物などを研究する学問

ふなばしめぐり

こう どう あん 高 幢 庵 薬円台1丁目1番

江戸時代の元禄年間(1688～1704)頃に木食僧観信^{もくじきそうかんしん}が開創したと伝えられています。墓地には、観信の墓(享保11年・1726)、隣接する小堂には観信が彫ったと伝えられる木造地藏菩薩坐像^{もくぞうじざうぼさつざざう}、通称「木っば地藏^こ」(共に市指定文化財)があります。「木っば地藏」は上飯山満村高野にあった揺るぎ松という大きな松が枯れた折に、その松を使って作られたそうです。素朴で力強い作風の仏像です。この他、享保7年(1722)に將軍徳川吉宗の命令で開設された薬園の総括責任者・丹羽正伯の供養碑(万延元年・1860)、薬園の現地指導にあたった桐山太右衛門の墓碑(享保11年・1726)、正伯小学校校舍新築記念碑(明治33年・1900)、十九夜塔、馬頭観音、出羽三山供養塔など、薬円台の歴史が刻まれた石碑が数多く残されています。

※木食…穀物・肉を食べず、木の実、草の根などを食べる人のこと。



木っば地藏

～ 船橋の明治・大正・昭和 ～

えん
塩

「塩田」は文字どおり海水から塩を採るための田んぼ状の施設です。

日本は周りに海がいっぱいあるから塩はいくらでも採れたと思われるかもしれませんが、塩分濃度が3%程しかない海水からまとまった量の塩を採るのは非常に大変なことでした。水分が蒸発するのを待つのは時間がかかり、天候にも左右されます。また、火を使って海水を煮立てるには大量の燃料を必要とします。そのため、塩は非常に貴重なものでした。

日本での、塩の生産の歴史を振り返ると、古くは縄文時代の遺跡から海水を煮立て、塩を採るために使われた製塩土器が出土しています。

塩田を用いた塩の生産が行われるようになったのは平安時代になってからと言われています。

現在、国産の塩と言えば、瀬戸内海沿岸で生産された塩が有名ですが、昭和初期まで東京湾沿岸でも塩が作られていました。

さて、船橋周辺での塩の生産はいつ頃から始まったのでしょうか？

始まりははっきりしませんが、万葉判物という古文書に、永福3年（1560）、西船橋九日市場之内に「塩場」があった、という記述があります。この「塩場」が塩田のことと考えられ、戦国時代には船橋周辺で塩が生産されていた可能性があります。

行徳（市川市）から二子（船橋市）にかけての東京湾沿いには、慶長年間（1596～1614）に塩田があったことが確認されています。

二子より東側では、天明5年（1785）に西海神で正式に塩田が認められています。現在の地名で言うと、船橋市南海神付近です。

西海神付近から行徳方面の塩田の風景が、江戸時代末期に記された紀行文『鹿島参詣記』（図1）の中に描かれています。

明治時代に入り、塩田はさらに千葉方面に広がり、船橋や津田沼の東京湾沿いにも塩田が造られました。図2は、大正時代に発行されたと考えられる絵葉書です。船橋市役所付近にあった「三田浜塩田」

でん
田



図1 『鹿島参詣記』塩浜之図



図2 「三田浜塩田」を撮影した絵葉書

を写したものだと思われます。

東京湾岸の塩田はたびたび高潮の被害を受けます。特に大正6年（1917）に起こった高潮では多くの塩田が大規模な被害を受けました。この高潮の被害から復興できず廃業した塩田もありました。その後、生産を続けていた塩田も昭和4年（1929）、第二次塩田整理令により廃止となり、船橋周辺での塩の生産は終わりを迎えます。

《主な参考文献》

- ・小沢利雄「東京湾岸の塩田製塩について—船橋・津田沼町の塩田開発と廃絶—」『船橋市史研究 11』（船橋市教育委員会 平成8年）
- ・『絵はがき—写真に残された明治～大正～昭和—』（船橋市郷土資料館 平成17年）

●●● 訪ねてみよう! ご近所の遺跡 ●●●

江戸時代、幕府は軍馬養成のために下総に小金五牧と佐倉七牧、安房に嶺岡五牧の野馬放牧場を設置しました。図1のように船橋市域には小金五牧のうち下野牧が咲が丘から習志野にかけて広がっていました。

現在では、高根木戸、馬込などの地名やわずかに残っている野馬土手が当時の様子を伝えてくれます。野馬土手は、牧の内外に築かれた土手の総称で、構築目的と形状から野馬除土手、勢子土手、囲土手等がありました。

野馬除土手は、馬が牧外に出て田畑を荒らし集落への侵入を防ぐために作られた土手です。写真1は大穴北5丁目の雑木林内に残る野馬除土手（写真左・右）と野馬堀（写真中央）で、土手の高さは0.5～1m、堀の深さは1～1.5mです。野馬堀を挟んで右手の土手（牧内側）は、馬の怪我を防ぐために低くならかで馬の勢いをとめ、左手の土手（牧外側）は、馬の逃走を防ぐために高く急斜面です。傾斜と高さの違いにより馬が堀に入っても牧内に戻れるようになっていました。また、村から牧に入る道には土手と土手の間に木戸が設けられ、成田街道では、正伯木戸と新木戸（八千代市）がありました。

勢子土手は、牧内にあったことから中土手とも呼ばれ、勢子が馬を捕獲する時の誘導路として使った土手です。馬を集める際の労力軽減、効率化のため、牧内は土手によって区画に仕切られていました。捕獲時には一区画の馬を集めて次の区画へ移し、あわせた馬をさらに次の区画へ移す事を繰り返し、最終的に牧の馬をすべて集めました。写真2は船橋市の二和小学校南側に残る勢子土手です。土手にはクヌギやエノキが生えて高さ2～3m、底幅5～6mで二和東と南三咲の境界に沿って約500m走っています。現在、土手の両側は道路になっ

しものまき 下野牧の野馬土手

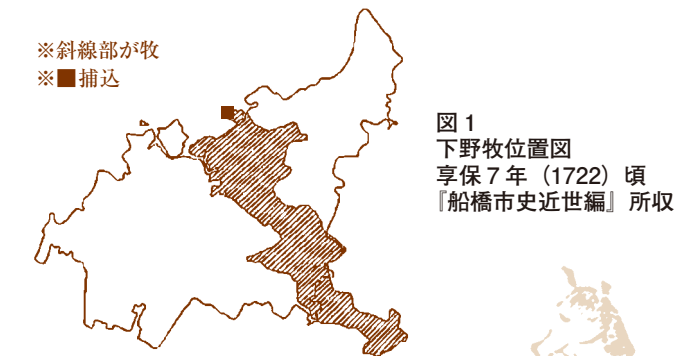


図1
下野牧位置図
享保7年（1722）頃
『船橋市史近世編』所収

ており野馬堀があったかどうかは不明です。まさに道路を二分する立派な土手です。

捕込は、野馬を追いつんで捕まえる施設です。軍馬に適した馬以外は農耕馬等として村々に払い下げられました。図2の下野牧の捕込は咲が丘1丁目にありました。図を見ると笠をかぶって帯刀し鞍を置いて馬に乗る牧士、蓑笠を着け竿か棒を持った勢子、土手上的の指揮所と見られる小屋、見物人等が描かれています。年1回の「野馬捕り」の行事は人気を呼び、土手上では近郷近在からの見物人で賑わいました。明治時代になると政府は小金牧、佐倉牧などを廃止し、東京在住の旧武士階級や無職の人たちに開墾入植させる計画をたてました。明治2年から入植が始まり最初の初富（鎌ヶ谷市）に続いて2番目に二和、3番目に三咲が続き13の新しい村が生まれました。なお、野馬土手を見学される場合は、私有地の場合もあるのでご注意ください。（M.Y.）

《主な参考文献》

- ・『船橋市史 近世編』（船橋市 平成10年）
- ・青木更吉『小金牧野馬土手は泣いている』（斎書房 平成13年）



図2 野馬捕りの様子（『成田参詣記』）



写真1 野馬除土手（大穴北5丁目雑木林内）



写真2 勢子土手（二和小学校南側）

市内西船の茂春山宝成寺は、天正年間(戦国時代)から450年続く曹洞宗の古刹です。

江戸時代、当地に領地があった大名成瀬氏の墓(船橋市指定史跡)があることで知られています。今年は宝成寺の先達、25世・26世のそれぞれ50回忌・23回忌にあたり、法要を機に襖絵を奉納することになりました。赤星隆誠住職が襖絵の制作を依頼したのが、市内在住の水墨画家・荒井恵子さん。国内外で意欲的に作品を発表される気鋭の美術家で、当館で毎夏開催される縄文コンテンポラリーアート展にも平成18年・19年と2年続けて出品されました。奉納された襖絵の開眼供養が4月19日に営まれ、由緒あるお寺の襖絵に、水墨画のダイナミックな抽象画という組み合わせに、多くの方々から驚きと感動の声が寄せられました。

夏休みに入った7月23日、赤星住職と荒井さんにご協力いただき、海神中美術部顧問の石原先生、船橋中美術部顧問の斎木先生とともに両校美術部の活動を宝成寺にて行わせていただきました。本堂ではご住職からお寺の歴史についてのお話を、荒井さんからは作品制作に関わるお話をうかがいながら、襖絵の鑑賞と模写を行いました。生徒たちは、日ごろ体験することのできないお寺での活動に少し緊張しながらも、襖絵の精緻な筆遣いや大きな襖をキャンバスに見事な色彩で宇宙と心を表現した作品からいろいろなことを感じてくれたようです。またご住職と荒井さんのお話から、多くのことを得たことと思います。

お寺は歴史的に見ても地域の学問の中心であり、芸術文化活動に深く関わってきたところです。このような機会に、地元の人々がいろいろな形で、生徒たちの学びに関わりあっていくことの素晴らしさを感じた1日でした。(K・K)



本堂で赤星住職の話をうかがう



荒井さんに筆の説明をうける



熱心に模写する中学生



飛ノ台史跡公園博物館では、船橋市華道連盟の協力により、施設内に趣向を凝らした花々が飾られています。

平成25年度 飛ノ台史跡公園博物館 バス見学会随行記

平成25年5月25日、土曜日。今年の飛ノ台史跡公園博物館のバス見学会は、佐倉市にある国立歴史民俗博物館と酒々井町の本佐倉城を訪ねます。5月の末とはいえ、真夏を思わせる強い日差しが降り注ぐ毎日でしたが、当日は曇り空で適度に風もあり、見学会には絶好の天気となりました。バスは参加者32名を乗せ、最初の見学地である国立歴史民俗博物館(以下、歴博)に向かいます。京葉道路花輪インターから高速に入り、四街道インターで降りて、田植えのすんだ田や新緑の眩しい森を眺めながら順調にバスは進み、9時40分に到着しました。

歴博では、出発の12時45分まで約2時間半の見学予定です。ここでは自由見学のため、参加者は入場券を手に、それぞれの興味ある展示室に向かいました。1983年の開館から30年を迎えた歴博では、数年前からリニューアルを進め、新しい展示に変わった所がいくつかありました。そのリニューアルオープンの企画展として第4展示室では、「列島の民俗文化」が開催されていました。第1展示室のプロローグの部分も大きくリニューアルされ、布と鏡などを大胆につかった展示の工夫がなされていました。鏡には入館者自身が映るため、自らが現代から過去に遡っていくようであり、歴史への興味を湧き起こさせます。この展示構成は、「ディスプレイデザイン賞2011」で、優秀賞を受賞したそうです。



遠くに本佐倉城を望む

また、今回のリニューアルに合わせて、第6展示室「現代」が新設されました。展示内容は、「戦争の時代」「占領の時代」「高度経済成長の時代」という流れで、『戦争と平和』『戦後の生活革命』の2つのコーナーの展示構成です。戦争中の困窮した人々の生活や敗戦後の闇市・露店の実物大の展示には、苦しさや懐かしさの入り混じった思いを抱いた参加者もいたのではないのでしょうか。

昼食後、午後の見学地である本佐倉城に向かいました。本佐倉城へは直接バスで行くことが出来ないため、歴博からバスで15分ほどの酒々井公民館でバスを降ります。「酒々井」は難読地名で知られており、昔、孝行息子が父親に飲ませた井戸水がお酒に変わったという故事に因んで付けられたそうです。酒々井町は、古くから米作り

や酒造りが盛んで、名前のとおり、日本酒は現在千葉県一の生産量を誇っています。また、旧石器時代の遺跡があり、古代には古東海道が、近世には成田道はじめ3つの街道が通る要衝の地として往来の盛んな地域でした。



本佐倉城に着き、見学前に全体でガイダンスを受ける

公民館に到着し、酒々井町の案内のボランティア(酒々井ふるさとガイドの会)の方々と一緒にグループを作り、本佐倉城目指して出発しました。しばらく歩き住宅街を抜けると、田植えの終わった水田を見渡せる場所に出ました。ここは県の指定文化財である上岩橋貝層が断層になり見られる所です。上岩橋貝層は、この地域が約20万年前に古東京湾であったころ堆積して出来た自然貝層で、大昔は海の底であった証拠となるものです。大規模な地殻変動により現在の地形になったことが推定でき、そのスケールの大きさに参加者はみな一様に驚きました。ここからは、水田の向こうに緑に包まれた小高い台地に築城された本佐倉城が望めます。それから30分ほどハイキング気分歩き、本佐倉城に到着後、グループごとに見学を開始しました。

本佐倉城は下総守護千葉氏が文明年間(1469～1486)に築城し、天正18年(1590)に豊臣秀吉に滅ぼされるまで関東有数の大名千葉氏の居城でした。現在でも大規模な空堀・土塁・櫓台に守られた郭群などの縄張りが見事に残り、城内を散策しながら戦国時代の息吹を感じることができました。それも、ふるさとガイドの皆様のおかげで丁寧な解説があったからです。

私たちは本佐倉城の見学を終え、出発地の公民館に戻り、帰路につきました。今回のバス見学会では、午前中はリニューアルした歴博を一人ひとり自分の興味のある展示をじっくりと見学し、午後はボランティアの熱心な説明を聞きながら戦国時代に思いを馳せ、有意義な1日を過ごすことができました。



物見台からは、遠く印旛沼が望める

(N・S)

郷土資料館

- ★小企画展「収蔵考古資料展 ― 地中から出てきた石・骨・金属 ―」 平成25年10月12日～12月8日
 ★小企画展「くらしの道具 ― 道具が語るくらしの歴史(17) ―」 平成25年12月21日～平成26年3月末予定。
 ☆地域史講座「8代將軍吉宗と薬園台 ― 砂糖國産化の謎 ―」
 日時：平成25年11月3日(日) 午後2時～4時 会場：薬園台公民館 講堂 定員：100人
 講師：荒尾美代氏(昭和女子大学客員研究員) 要予約・先着順 10月1日受付開始 TEL 047-465-9680

飛ノ台史跡公園博物館

- ☆講座「縄文大学」 全4回
 考古学や関連する学術分野の講座です。博物館に電話で申込み TEL 047-495-1325
 内容：下記のとおり 会場：船橋市民文化創造館きららホール(船橋駅前FACEビル6階)
 時間：午後6時30分～8時(受付開始午後6時から) 受講料：無料 定員：170名

期 日	内 容	講 師
10月2日(水)	東京湾の貝漁7000年の歴史 ― 縄文時代の貝塚に見る人と海の関わり ―	西野 雅人氏 千葉県教育庁教育振興部文化財課
10月9日(水)	出土人骨が提示する情報 ― 古人骨から今を考える ―	谷畑 美帆氏 明治大学日本先史文化研究所研究員
10月16日(水)	山と祈りの考古学 ― 自然景観と日本人の関わり ―	今福 利恵氏 山梨県埋蔵文化財センター
10月23日(水)	発掘された子どもの歴史 ― 考古資料に見る子どもたちの生き方 ―	忽那 敬三氏 明治大学考古学博物館学芸員

- ★企画展「縄文土器のふしぎ」 平成25年11月2日(土)～12月22日(日)
 縄文土器にはなぜ模様がついているのかな？なぜ底が尖った土器があるのかな？千葉県や山梨県の魅力的な土器を観察しながら「ふしぎ」を解決してみませんか？
 ☆講座「考古学講座」 全3回 海神公民館と共催 会場：海神公民館講堂
 平成26年1月18日(土)・1月25日(土)・2月2日(日) 午後2時から 全3回を予定。
 ★「日本の美を今に活かした作品展」 平成26年3月8日(土)～4月6日(日)予定 会場：1階ギャラリー
 海神中と当館の博学連携授業で制作した陶芸作品(1年)、型染めの作品(2年)、拓本のボックスアート作品(3年)を展示。

郷土資料館

開館時間 午前9時～午後5時
 (入館は午後4時30分まで)
 入館料 無料
 住 所 船橋市薬園台4-25-19
 電 話 047-465-9680
 F A X 047-467-1399
 Eメール kyodo@city.funabashi.chiba.jp

交通案内

新京成電鉄 習志野駅下車 徒歩10分
 JR津田沼駅北口から
 習志野新京成バス「高津団地中央」「北習志野駅」「八千代緑が丘駅」行き、または、ちばレインボーバス「船尾車庫」「JR木下駅」行き
 「郷土資料館」下車徒歩1分



飛ノ台史跡公園博物館

開館時間 午前9時～午後5時
 (入館は午後4時30分まで)
 入館料 一般100円(団体20名以上70円)
 児童生徒50円(団体20名以上30円)
 市内在住小中学生 無料
 住 所 船橋市海神4-27-2
 電 話 047-495-1325
 F A X 047-435-7450
 Eメール tobinodai@city.funabashi.chiba.jp

交通案内

東武野田線 新船橋駅下車 徒歩8分
 京成線 海神駅下車 徒歩15分
 東葉高速鉄道 東海神駅下車 徒歩12分
 新京成バス
 JR船橋駅北口から建鉄循環
 「海神中学校」下車 徒歩1分



10月	11月	12月	平成26年 1月	2月	3月
日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土
6 7 8 9 10 11 12	3 4 5 6 7 8 9	8 9 10 11 12 13 14	5 6 7 8 9 10 11	2 3 4 5 6 7 8	2 3 4 5 6 7 8
13 14 15 16 17 18 19	10 11 12 13 14 15 16	15 16 17 18 19 20 21	12 13 14 15 16 17 18	9 10 11 12 13 14 15	9 10 11 12 13 14 15
20 21 22 23 24 25 26	17 18 19 20 21 22 23	22 23 24 25 26 27 28	19 20 21 22 23 24 25	16 17 18 19 20 21 22	16 17 18 19 20 21 22
27 28 29 30 31	24 25 26 27 28 29 30	29 30 31	26 27 28 29 30 31	23 24 25 26 27 28	23 24 25 26 27 28 29
31					30 31

□ は休館日